

会 議 録

- 1 会 議 名 木更津市立公民館運営審議会第2回定例会
- 2 開 催 日 時 令和元年10月11日（金）午後2時～午後3時45分
- 3 開 催 場 所 木更津市立中央公民館 第1会議室
- 4 出席者氏名 **【公民館運営審議会委員】** 16名
市原 浩 村上 淑子 兼近 裕美 北村 和則 西澤 功
青木 健 井上 茂男 関口 由美子 清水 正夫 秋元 豊
山田 治子 渡利 明 安藤 清康 清水 弘美 山下 紀世美
鶴岡 俊之

【公民館長】 15名
石井 一彦（中央公民館） 佐々木 英之（東清公民館）
水越 学（富来田公民館） 星野 隆弘（清見台公民館）
大河原 敏雄（岩根公民館） 渡邊 祐二（畑沢公民館）
山本 卓人（鎌足公民館） 玉川 剛（岩根西公民館）
加藤 高明（中郷公民館） 安田 正幸（西清川公民館）
桑田 清行（富岡公民館） 石井 春久（波岡公民館）
吉田 貞利（文京公民館） 米澤 雅史（桜井公民館）
鈴木 修一（八幡台公民館）

【金田出張所長】 山下 要一郎

【事務局職員】 4名
松本 明子（中央公民館副館長）
小野 裕太（中央公民館主事）
萩野 雄大（中央公民館主事）
宮城 三津子（中央公民館社会教育指導員）
- 5 議題及び公開又は非公開の別 公開
議案第1号 令和元年度公民館文化祭（まつり）及び視察研修の実施について

議案第2号 地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について
意見交換（グループ討議）

報告事項 （1）各種選出委員からの活動経過報告

(2) その他

・第71回千葉県公民館研究大会について

6 傍聴人の数 0人

7 会議概要 以下のとおり

事務局より、出席者数が2分の1以上に達した(20名の定員に対して16名の出席)ので、本会議が成立したこと、及び、本会議は公開制であることを報告。

令和元年度木更津市立公民館運営審議会第2回定例会を開会する。

<議案第1号 令和元年度公民館文化祭(まつり)及び視察研修の実施について>

事務局より、各公民館から報告をいただきたいところだが、本日は台風19号接近に伴い、開催予定の文化祭については、館長からの説明は省略し、事前配布した資料をもとに審議いただきたい旨説明する。

青木 健委員長： それでは議事に入ります。議案第1号令和元年度公民館文化祭、及び視察研修の実施についてです。実施内容については、中止の富来田公民館、富岡公民館、延期の中郷公民館の3館に絞らさせていただきます。はじめに富来田公民館お願いします。

水越 学富来田公民館長： 富来田地区でございますが、先日の15号の台風の被害で、市内各所それぞれ被害はあったと思います。特に富来田地区については非常に被害が甚大でございました。停電の期間も非常に長く、台風が過ぎ去った後、富来田地区の文化祭については、まちづくり協議会と区長会と、文化祭実行委員会が連動しながら地域の行事を開催しているということで、それぞれの長と話し合いを行いました。その結果ですけども、年内中の富来田地区の行事、一番直近で言いますと、コスモスフェスティバルなどもすべて中止となりました。やはり今はそういう状況ではないのではないという話になりまして、富来田地区につきましては、今回第40回を予定をしていたのですが、今年度については中止となりました。その代わりに、来年度、オリンピックイヤーにちなみまして、盛大にやったらどうかというような話が出ましたので、今年度については中止ということになります。また富岡公民館の方の文化祭についても、富来田地区ということで、地域全体で話をした結果ということで、富岡についても、中止という方向に流れておりますので、ご了承願いたいと思います。

青木 健委員長： はい、ありがとうございます。富岡公民館、何かございますか。

桑田 清行富岡公民館： 先ほど説明がありましたけども、9月12日木曜日に第1回文化祭実行委員会を予定していました。ところが、台風の関係で延期となりました。思った以上に、被害が大きくて停電も続きました。実行委員会をいつやるかということで、とてもそういう状況ではありませんでした。そこでやっと落ち着いた10月1日火曜日に、役員会、これは実行委員長、副委員長、事務局が集まって文化祭の方向性を話し合いました。そこで出ましたのは、被害の大きさ、日常生活に苦勞している住民がたくさんいる、ということが一番大事に考えました。そして、地域の祭礼がほぼ中止になりました。地域の祭礼が中止になっている時に、文化祭をやるのはどうだろうかということで、その席で、今年は中止にしようということで決定しました。この決定を10月2日、次の日から実行委員が手分けをして、全宅訪問をし、中止を伝えました。皆さん反応としては仕方がないという反応でした。

青木 健委員長： 中郷公民館お願いします。

加藤 高明中郷公民館長： 中郷地区も富来田地区、富岡地区と同様に、この台風15号の被害は大変甚大でございました。完全に復旧するまではまだまだ時間と労力はかかりそうです。そのような中で、あるサークルが発表を目指して作成活動をずっと続けていましたが、そのサークルから台風被害で自分の家も、或いは農業地も作業地も、復旧がなかなか思うようにいかない。そんな中で、制作活動になかなか気が向いていかない、集中できないということで、今回の文化祭については、参加を辞退したい、というような申し出がありました。そこで、まちづくり協議会や、公民館運営協力委員会等の役員を集めまして、いろいろ意見を聞きました。その中で、やはり文化祭というのは、サークルが一生懸命やっていることが、地域住民の目を引き、そして地域住民が見に来てくれたり、参加してくれたりすることになるだろうと。そのサークルの人たちが、それでもこの日にやるしかない、決まっているからしかたがないというような気持ちでやっていると、あまり良くないだろうというような意見が出てきたりしました。主体であるサークルが、活気があるからこそ、文化祭が盛り上がって充実していくのだろう、というようなことで改めてこの話し合いの中で文化祭の重要性を考えさせられたわけです。それではどうしようかということになって、今年の6月にまちづくり協議会が中郷地区では立ち上がりましたので、第1回目として11月30日に、音楽会をまちづくり協議会で開こうということになっていました。これは中郷小学校を会場に、隣の袖ヶ浦市在住のプロのソプラノ歌手の方を呼んで、そして音楽会を開くということで、そしたらそれとジョイントしてやろうと、会場も当初から同じ予定だったので、11月30日に文化祭を開催する予定でいます。ただ、舞台発表は開催出来ず、ソプラノ歌手の発表だけであとは展示部門を中心にやっていきたいと考えております。

青木 健委員長： はい。ありがとうございました。次に金田地域交流センターの山下さん、お願いします。

山下 要一郎金田出張所長： ただ今ご紹介がありました通り、文化祭の主体が指定管理者の三幸ですので、江澤センター長がここに来て、ご説明申し上げたいところなのですが、自主避難所の運営をすでに始めているところでございます。どうしてもこちらに伺えないということで、私が代わりにご説明させていただきます。今日お手元に配らせていただきました青いチラシが文化祭のチラシになります。これも事前に配布することができなかったことを、お詫び申し上げます。金田地域交流センターの第1回の文化祭ということで、10月27日午前9時から15時まで開催を予定しています。そのチラシの裏に細かい日程が載っていますが、以前から金田公民館で活動していたサークル、加えて市内のサークル、それから交流センターになってはじめて使用するようになったサークル等含めて、公民館時代から比べると少し多くの団体が参加してくれていること、それから金田公民館時代にはなかった発表部門を文化祭に導入して、他の公民館と同じように発表部門・展示部門の2部門で行えること等が金田公民館時代の文化祭と比べて違うところだと思っております。

今、まちづくり協議会を中心とした実行委員会で鋭意準備をしておりますが、初めてのことで、手探りのなか、また台風の被害のなか、なかなか準備も整わずに急ピッチで進めているところです。幸いにも10月27日に視察で寄っていただく予定になっていますので、新しい金田の文化祭をぜひその目で見ていただければありがたいと思います。そして、視察に来ていただいている時間に、金田地域交流センターの愛称を発表する式典もありますので、視察に来られる方はもちろん、お時間のある方は時間に合わせて当日足を運んでいただくとありがたいと思います。

青木 健委員長： ありがとうございました。各公民館の文化祭につきまして、ご質問やご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。北村委員。

北村 和則委員： 質問ではございませんけど、今回また台風19号が猛烈な猛威を振るって、明日あたりから日曜日にかけて来る予報が出ています。こういった災害で多大な被害が出た場合、また各公民館が避難場所として使われた場合、再度2週間ぐらい避難所として、ブルーシートなどいろいろな災害用物資の配布場所となると思います。また、各公民館まつりは、今月末から開催されるところが多いと思います。台風19号の被害が拡大した場合のことを考えると、ただいま富来田と富岡が中止ということをお聞きしましたが、それ以外の公民館も、被害が拡大した場合は中止ということも考えられるということでしょうか。お聞きしたいと思います。

青木 健委員長： 石井中央公民館長、お願いします。

石井 一彦中央公民館長： 今後中止などが考えられるかというご質問だと思いますが、基本的には実行委員会方式を採用しておりますので、地域の方々と公民館が、一緒になって実施するかしないかについて、それぞれの地域で検討がなされていくのではないかと考えております。昨日、中央公民館も実行委員会が行われました。その中では11月2日、3日でありますけれども、実施していこうというような方向で検討されておりますので、今後この19号の被害がどのぐらいになるかということも頭に入れながら、各地域でも検討がなされていくのではないかと考えております。

青木 健委員長： よろしいでしょうか。

北村 和則委員： わかりました。やはり今回被災されている人が、市民の中で多数いると思います。今回19号がまた来て、二次被害がかなりの数が出ると思います。そういった場合やはり被災されている人のことを考えると、やってる公民館がある、やらない公民館もあるというのは、少し考えなくてはいけないのでは、と私個人的に思います。今回19号の台風が甚大な被害を出した場合は、公民館まつりとしては、市として、被災者のことを考えると、少し考えなくてはいけないと、私は思いますので、その辺をお汲み取り願いたいと思います。

青木 健委員長： ほかにご質問、ご意見等ございますでしょうか。はい、山田委員。

山田 治子委員： 予算についてですが、あまり今まで気にしていませんでしたが、5館ほど20万円もいかないで開催している公民館があります。一番驚いたのは富来田公民館と桜井公民館がそれぞれ19万円と18万円で開催しています。結構公民館として規模が大きいと思うのですが、何をどのように心がけて、その少ない予算で開催しているのかということをお聞きしたいです。何年前かに、八幡台公民館が11万ぐらいで開催していることにびっくりしてお聞きしたら、十分出来ていますということだったので、富来田公民館と桜井公民館を考えたときに、結構盛大な文化祭なので、なおさらお聞きしたいと思いますが、教えていただけますか。

青木 健委員長： はい、では水越館長。

水越 学富来田公民館： 富来田公民館を私の方から。私も実は今年初めて富来田公民館の館長になったので、初めての文化祭を経験するはずだったのですが、今お話しした通り、中止になってしまいました。この予算規模なのですが、富来田地区はまちづくり協議会を中心として、納涼大会、またコスモスフェスティバル等々のいろんなイベントがセ

ットされています。さらに地域の商工会が、公民館のお祭りの中に入っている実態がありまして、模擬店だとか、その商工会の方からの収入、副収入とでもいいかもしれません、そういうものが入ってきたりしています。あと広告料。地域の区長さんなどが非常に積極的です。納涼大会などを見ていますと、今年私初めて出ましたが、随分と広告料といえますか協賛金を集めていただいたということもありましたので、そのあたりを文化祭等に振り分けていただいて、やっている印象を受けております。実際私が経験していないので何とも言えないのですが、そういう部分から見ても、予算規模が比較的富来田は豊かなのかなという印象を受けております。

山田 治子委員： ありがとうございます。桜井はどうでしょう。

米澤 雅史桜井公民館長： 桜井公民館の米澤です。私も今年度ここへ来て、経験はしていないのですが、富来田と同じで、サークル連絡協議会に参加しているサークルの方たちが、文化祭の中で、模擬店などを行っております。その中の収益等も使わせていただいております。そういった形で他の公民館よりも少なくなっていると理解していただきたいと思っております。以上です。

山田 治子委員： ありがとうございます。あとは富岡、八幡台、西清川も10万円台ですが、皆さんも同じような状況でしょうか。西清川も結構派手に模擬店等もやっていますが、そういう収益もあつてのことなのかと思います。いろいろと皆さんご苦労しながら、また地域の方と協賛しながら進めている文化祭なのだということが、よくわかりました。ありがとうございます。

青木 健委員長： 他にご意見、ご質問等ございますでしょうか。ないようでしたら、議案第1号については承認されたものといたします。公民館の地区文化祭運営の蓄積が地域づくりを支える活動につながっています。それぞれの地域で、実りのある取り組みが展開されることを期待しております。

10月27日の視察研修では、各地域の特色や公民館の新しい取り組みを拝見できればと思います。委員の皆様は、是非、出席をお願いいたします。また、今回お伺いすることのできない公民館につきましても、個人的に足を運んでいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

<議案第2号 地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について
意見交換(グループ討議)>

青木 健委員長： 次に、議案第2号「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方につ

いて」意見交換に入ります。

事前に資料をいただいておりますので、事務局から説明をお願いします。

事務局説明

青木 健委員長： ここで、本日お手元に配りました社会教育委員会議の視察内容（公民館・学校・図書館等の複合施設の視察、7月4日実施）について、鶴岡俊之副委員長よりご紹介をお願いします。このあとの話し合いで、参考の一つになるかと思えます。

鶴岡委員紹介

青木 健委員長： ありがとうございます。それでは、分かれて話し合いをしてください。

3部屋に分かれてグループ討議(1時間)

青木 健委員長： では、どのような話し合いがなされたか、各グループの司会進行を務めた館長から報告をお願いします。

渡邊 祐二畑沢公民館長： Aグループは、現状の公民館をわかっていただき、いいところ悪いところを話しましょうというところから入りました。

まず第一に、一中学校区1公民館構想があることが、地域に根ざした公民館として地域の意見が公民館運営に伝わる最大のメリットであるという意見がありました。

また、公民館利用者が、高齢化していることに対して意見が出ました。現状では、今の公民館でも交通機関を使わないと公民館まで行くことができない場合もありますが、地域の集会所を利用してでも公民館の必要性を伝えていけば、公民館の役割をもっと浸透させていくようにしていけるのではないかという意見がありました。

また、施設が複合化したら変わっていくのではないかという反対意見がある中、統廃合して中学校と公民館が複合化することによって、公民館利用者が中学生と顔を合わせることによって生まれる新たな交流、今仮移転した中央公民館の前は学習コーナーとして開放されていますが、いい解釈として考えるならば、よい雰囲気広がっているように思います。

さらに、複合化、あるいは統合化して公民館が減ると、遠くなって行けない人が増えるのではないかという意見もありました。

最後に、職員体制の話になりまして、特に非常勤館長は2年くらいで終わり、去られるので、地域に根ざした職員体制を作っていくためにも、なんとかしてほ

しいという意見がありました。

公民館の良さを伝えていくためにも、単に財政難だからという理由だけで複合化するのではなく、地域に根ざした公民館を作り上げていくために知恵を絞っていく努力が必要であるという意見がありました。

青木 健委員長： はい、ありがとうございました。次に B グループお願いいたします。

水越 学富来田公民館長： B グループですが、いくつか意見が出ました。その中で、最初に公共施設再配置計画の 8 地区を基本に統合についてということで、話をしました。その結果ですが、少子高齢化ですとか、人口の偏りなんかがあるということで、簡単に 8 地区に分断するっていうのは難しいだろうと。それはやはり都市計画や、あと、学校との統廃合の兼ね合いも考えながら、考えていく必要があるのではないかという話の一つ出ました。

それとともに、公民館は、今まで学習の拠点ということで、活動をしてきたんですが、これからは、プラスアルファ、今回のその防災の関係も非常に注視されている部分もありまして、現在の数を減らすことが果たして、いいのかと。やっぱり大きな地域にまとめてしまうことが、イコール今の防災のくくりで分けてしまうということになると、これ以上大きく地域をまとめていくことは難しいのではないのかという意見が出ています。

それと同時に、防災学習面と、防災面、いわゆる行政面の部分も、考えていく必要があるということであると、現在の職員の人数、常勤の方が 2 人だとか、全部で 3 人だとかというような体制では、とても今のいろいろな地域の問題を解決していくことは難しいのではないかという話が出ました。

大きくまとまった部分での事業展開も必要だし、逆に今まで公民館が培ってきた、さらに小さなコミュニティーを育てていく、事業体制も作っていかなくてはいけないのではないかというような意見も出ました。

あとプラスですけれども、広報活動、特にらづナビなどを中心とした広報活動を、もっと公民館は活用しながら、地域または市の中へ展開していくことによって、公民館の存在意義だとか、今の公民館の地位を高めていくことにもつながるのではないかというような話がありました。

もう少し話をしていきたいのですが、雑駁にまとめるとこんな形でございます。

青木 健委員長： はい、ありがとうございました。次に C グループお願いいたします。

星野 隆弘清見台公民館長： C グループですけれども、まず、途中で公民館にはですね、大きく三つ大きな機能があるだろうということで、日々の生涯学習の場としての機能と、それから、地

域コミュニティーをつくっていく地域づくりの拠点としての機能、それからもう一つ、今回は台風 15 号でいろいろ共通の意見をいただくとはいえませんが、避難所としての機能、これが非常に大事だということで、特に今回の台風で、それぞれの地区公民館が自主避難所として開設をして、例えば、今でもそうですが、ブルーシートや土のう袋や災害物資などの配布したり、地域の人達にも供給していく中で、やはりいろんな人たちが地域で公民館を頼って来るというような現状を見ていると、特に避難所としての役割を考えたときには、公民館がやはり身近なところに、自分が住んで身近なところがないと、これは本当に大変なことになる。公民館が身近なところにあって、地域の人達が助かっているという話が最初にありました。

その中で、これからの公民館をどういうふうに配置していくのかということですが、例えば、公民館がない時代から比べると、小学校や中学校、人口が増えて子どもの数が増えて、今まで学校がなかったところに学校ができて、それに合わせて学校区に平行して公民館を作るというような流れで来たのですけれども、ここに来て、今度は高齢化、そして人口減少、子供の数が少なくなっていくと、学校区域が再編されて学校が逆に少なくなると、では公民館も同じように減らせばいいのか、学校が統廃合されなくなったところに、では公民館も必要ないのかということ、必ずしもそういうふうに、同じように考えていいのかどうかというところは、まず、疑問だという意見が出ました。

それと、あと現状では人口が増えている同じ中学校区の中でも、例えば二中学区や太田中学区のように、請西東、請西南それから真舟のようなところ、中学校区の中に、文京公民館と清見台公民館だけでは、カバーできないような地域に関して、真舟にはやっぱり、公民館が必要なのではないかというようなところも含めると、改めて公民館の再配置を今後きちんと丁寧に考えていく必要があるんじゃないかという意見がありました。

それはもともと旧来の地域コミュニティーがあるところとの兼ね合いもあるでしょうから、そういったことを総合的に考えて、統廃合したり縮小していくにしても、そういったことをきちんと考えながら、よりよい再配置の考え方を示していく必要があるのではないかなという意見がありました。

それからもう一つ、今生涯学習課が、住民会議が中学校区に 1 公民館あるということで、これについても、公民館が事務局で中学校区の中で運営しているので、中学校区がなくなると当然、中学校が一つだから住民会議も一つにするというのは理屈としてはわかるのですが、もともとその地域が別だったところで活動していたものを、単純に一つにしてうまくやっていけるのかとか、逆に 1 中学校区 1 公民館 1 住民会議という、考え方でいけば、今行政が考えている再配置計画、8 地区を基本に公民館を統廃合するというような考え方と整合性が取れないということも出てくるので、もうちょっときちんと全体で考えていく必要があるのではないかということも意見としては出されました。

いずれにしても、単純に8ありきで、市内を8行政区域に分けて公民館を統廃合していくというのは、非常に乱暴というか、ちょっと考えが大雑把でないかという
ような意見が出されましたが、その意見に対して皆さんが同じように考えているよ
うでした。

青木 健 委員： 報告をいただきありがとうございました。これまでの意見を参考にして、これか
らのスケジュールについて事務局から予定がありましたら、お願いします。

事 務 局： このあとのスケジュールとしては、これまでの皆様の意見も参考に、館長から諮
問をいただき、諮問検討委員会を作り答申の準備を進めていく予定としたいと考
えております。よろしくをお願いします。

青木 健 委員： 事務局から話がありましたが、今後諮問、答申を予定したいとのことですので、
委員のみなさま、よろしくをお願いします。

次に報告事項について事務局よりお願いいたします。

事務局より報告

青木 健 委員： 以上ですべての議事が終了いたしました。これをもちまして、木更津市立公民館
運営審議会第2回定例会を終了いたします。
ありがとうございました。

以上で全ての議事を終了し、第2回定例会を閉会した。

令和元年10月11日

議事録署名人 木更津市立公民館運営審議会委員長 青木 健